



庄原市長

木山耕三

2015 新春特別対談

庄原市ふるさと大使

西田篤史

あけましておめでとうございます。今年が市制施行10周年の年になります。この節目の年のスタートにあたり、木山耕三市長と庄原市ふるさと大使の西田篤史さんに、この10年を振り返っていただきながら、これからの10年を「こんな庄原市にしたい、なってほしい」という思いを、ざっくばらんに語り合っていました。対談会場：三楽荘（東城町）

市制施行10年を振り返って

西田 本年3月31日で市制施行10周年を迎えますね。私がいまだに覚えているのが、庄原よいとこ祭の司会をさせていただいていたとき、ステーションから当時の市長とそれぞれの町長がわが町をPRしながら歩いて来られていたのを見て、果たして新しい庄原市になって一つにまとまるのだろうか、という思いにかられたことです。

あれから10年、市長になられてみて、そういった部分をどう感じになられていますか。

市長 一体感を感じられるようになってきていると思いますが、より一体感を出したいと思いい、庄原の観光キャラクターである「キョロやまくん」と今でも全国的に有名な「ヒバゴン」を組み合わせたPRロゴマークを作成し、庄原市を一体的にPRすることにしました。

西田 先日このピンバッチを付けて番組に出ましたが、女子アナウンサーの反応もよかったです。

ヒバゴンは以前から知られています。私が知っているのはもっと怖いヒバゴンです。やさしい顔になっているので、胸の位置に名前を付けたらいいと思います。

離れた広島からこの10年を見てみると、高野の道の駅をはじめ、東城

では帝釈峡、庄原であれば上野池、こうした各地域の色んなものがやると10年かかったけれども認知されて、一つの庄原市としてまとまってきたという感じがします。

市長 高野の道の駅は多くのお客さんであふれ、庄原の産品がどんどん売れています。高野以外の地域からも多くの出品があり、庄原産品として市外の人に広くPRできています。

このように、これからは地域の枠を越えて何事も一緒にやっていくことがとても大事です。みんながこの認識を持たなければいけません。

今年10周年の記念式典を行う予定ですが、式典という形式はつたものよりも市民の皆さんに楽しんでもらえる祭典にしたいと考えています。そのときにはぜひ西田さんにも司会をお願いしたい。各地域から色々なものを出してもらって、「一緒に頑張って良かった、これからも一つになって頑張っていこう」という気持ちで、次へのスタートが切れればいいですね。

西田 今回初めて三楽荘にきましたが、雰囲気もよく素晴らしいですね。

市長 この屋敷は寄贈を受け、土地は市が購入しました。現在、週4日ほど一般公開し、来訪者からも好評です。より多くの人に訪れてもらいたいと思っています。

西田 そのためにはもつと仕掛けをしてほしいですね。例えば、バスで来られた団体の方がここでランチが食べられたら最高だと思っんです。庭を眺めながら、地元のおいしい食事が楽しめる。今は、こうしたものが求められています。

漬物もいいですね。地元の皆さんで漬物の自慢をしようコンテストをしてもいいですし、おもてなしにもなります。広島市内ではスーパーで売っている添加物が入っているのが漬物だと思っっている方も多いため、本物を食べる体験ができるという気が出そうですね。

市長 価値の高い建物ですし、東城地域以外の方にぜひ来てもらいたい、そして自慢してもらいたい。同様にそれぞれの地域にいくつも宝があるわけで、皆がそれぞれにあるものを互いに認め合わなければいけません。

西田 本当にそのとおりです。お互いのことをライバル心は持っていてもいいですが、認め合うことです。プロボクサーがリングで殴り合いをし

ても彼らは試合が終われば抱き合っで称え合います。それはお互いに尊敬しているから。素人同士のけんかであればそうはならない。ただのけんかではなく、もつとレベルの高い戦いでお互いを認め合う。「あんたるところもいいが、うちんところもええんで」と。競い合うことでどんどん良くなっていくと思います。





西田 よく耳にすることで気になっているのが、「広島は遊ぶところがない」と言う若者が多いことです。遊ぶところとは何かと尋ねると「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」や「ディズニーランド」と返ってくる。そんなものを求められても困りますよね。そのときに私は言っているんです。「大型遊園地はなくても、山があつて、川があつて、海があつて、近くにスキー場がある。野球はカープ、サッカーはサンフレッチェ、バレーはJTサンダース、広島交響楽団など、それぞれ一流のプロがそろつていて周辺で見られる。これで遊ぶものがないというのは、ぜいたくな話」と。



市長 東城のまちなかでは、空き家になつている家の窓を開けて風を入れたり、まちなみギャラリーのときには活用したりする世話好きな人がいて、古いまちなみが守られています。他の地域にもそういった方々がもつと増えてほしい。

西田 比婆山や吾妻山のほかに、謎めいたミステリーゾーンで、何か元気がもらえそうな場所に「葦嶽山」がありますよね。

昭和初期に第一次ブーム、第二次ブームが昭和50年代にありました。当時は、葦嶽山から湧き出た水をベツトボトルで発売もされていましたよね。しかし、それ以降葦嶽山の話は全く聞かなくなってしまいました。UFOが出るといううわさもあり、これをもう一度復活させたら面白いと思

帝釈峡と資源は豊富です。

この資源を生かすために、ぜひともこれを何とか横につなげ、神野瀬峡から帝釈を回り庄原市全体を巡つてもらえるようにしたい。これは道を整備するだけではなく、もつと一体的にPRする必要があると思つていま



Kouzou Kiyama

それぞれの地域を輝かせ、それをしっかりとつなげて、庄原市として一体的にPRしていきたい

春には色々な花が楽しめ、登山ができて、食べるものもたくさんある庄原は、本物の遊びが提供できる場所だと思えますよ。

市長 市職員の一生懸命やっています。やつて当たり前と言われればそうなんです。そうは言っても人間ですから、「頑張れよ、むしろ応援しちやえ」というのがあれば違うと思うんです。楽しく、喜びを得る中にするほうが物事はいいはずですから。



Atsushi Nishida

庄原は資源の宝庫、本物を体験できる最高の遊び場であり、それを生かした仕掛けをしてほしい

います。

今そういったパワースポットがブームになつているので、標識を新しくしたり、登山道の整備をしたりすれば、もつと観光客が訪れるようになると思えます。

西城にはイザナミの伝説もありますよね。こんな山の中でクジラの化石が出てくるということも興味をそそると思えます。帝釈峡に鍾乳洞があるのを知らない人も多く、雄橋という日本一の天然橋もありますし。最近では、登山グッズ売り場には女

の子が多いです。カメラ女子も増えていて、絵になるところを探しています。「どこに行っているの」と聞くと縮景園に行っている子も結構いて、それならば1、2時間車で帝釈峡に来てもらつて、雄橋や神龍湖、鍾乳洞といった四季折々の景色を楽しんでもらえるのでは。冒険のようなことがしてみたい人には葦嶽山をおすすめすればどうでしょうか。

市長 それらはすべて庄原市の財産です。それぞれの地域を光らせた

庄原には高野、口和、庄原、東城と4つのインターチェンジがあり他市にはない強みがあります。しかし、それぞれの地域を見たときに横につながっていないことに気づきます。高野から目を移していくと、神野瀬峡、吾妻山、比婆山、熊野神社、道後山、



西田 極端なことを言えば、市長は何もしなくていいと思うんです。職員の方や市民の皆さんが市長に「あれしましょう、これしましょう」と言ってきたら、市長がそれを交通整理する。市民の皆さんが、自分たちの町を自分たちで良くしようという意識を持たないといけない。市の職員の皆さんも、やりたいと思うことをぜひ市長に進言してもらいたい。上から言われることをするだけじゃ面白くないでしょう。自らすると言った分、責任があるから職員も頑張りますよ。

いつも思うんですが、就任間がない市長や知事の足をすぐに引く張ろうとするメディアがあります。それはやめてもらいたい。石の上にも3年という言葉があるように、私たちが番組を一つ作るのでも、たった30分の番組で視聴率を取るのに3年はかかるんです。

ですから、これだけ広い面積の庄原市をまとめ上げていくのに4年では難しい。2年や4年で判断せず、皆が担いだ以上は応援して、そして皆が協力しあう。10年くらいの構想で取り組むべきだと思います。

市長 西田さんがこれまでテレビやラジオなどに関わられての経験から、庄原市のPR手法についてもアドバイスしてもらいたいですね。

西田 しし座流星群が見えると言っても、広島市内ではネオンや街路灯

があつてきれいには見えませんが、庄原に帰って夜空を見上げると怖いくらいに星がきれいに見えるんです。そういう庄原の魅力、観光資源がすぐたくさんあるのに、自分が37年間フリーのタレントとして仕事をして、庄原をローカルのテレビ局で取り上げた回数が多いかと言えば、そうでもありません。それは、発信の仕方、売り込み方に原因があると思います。よく取り上げられる町はその辺りがうまい。逆に、マスコミをうまく利用すれば、高いPR効果が期待できると思います。

私からのリクエストが一つあります。ぜひセットストックに変わるコンサートイベントを庄原市が主催となつて復活させてもらいたい。以前来てくれた、浜田省吾さんやドリカムさんといった有名アーティストに声を掛けてみては。日本中からファンが来てくれますよ。熱中症や台風の心配がない季節のいい時期にコンサートをすれば名物にもなり、庄原市の大きなPRになります。大変だとは思いますが、ぜひ実現してほしいですね。

市長 今日は庄原に対する熱い思いを聞かせていただきました。これからもお力添えをよろしくお願いします。

西田 庄原市ふるさと大使として、これからも出来る限り応援していきたいと思えます。



にしだあつし 西田篤史さん

Profile プロフィール

「あっちゃん」の愛称で親しまれているローカルタレント。庄原格致高校卒業までの5年間を父方の実家があった庄原市で過ごす。その後進学し、広島修道大学3年生の時にRCCラジオに初出演。卒業後は広島を中心にフリーで活躍。広島をこよなく愛し、広島の魅力を発信している。1956年生まれ。